

- 本社 久留米市百年公園1番1号 福岡バイオインキュベーションセンター402号
- 東京支社 東京都千代田区麹町2丁目2番4号 麹町セントラルビル7階

- 代表者 代表取締役社長 永井 健一
- 設立 2003年5月8日
- 資本金 3,774百万円
(2017年3月31日現在)
- 従業員 37名 (2017年3月31日現在)
- 電話 0942-38-6550
- FAX 0942-38-6564
- HP-URL
<https://www.brightpathbio.com/index.html>
- 連絡担当者 研究開発部 金子 弘一

がん免疫療法の開発を行う 創薬ベンチャー

【事業概要】

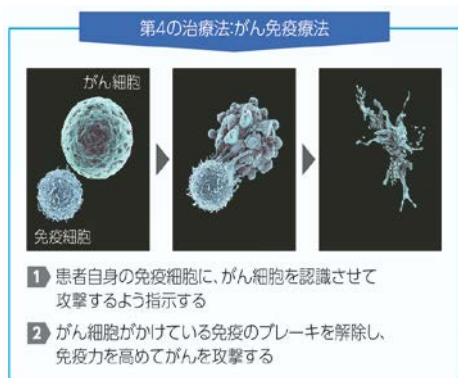
当社は、国内外で免疫の力を利用してがんを攻撃する「がん免疫治療薬」の研究・開発を行う創薬ベンチャーです。久留米大学による探索研究の開始から四半世紀にわたって研究開発を行っています。2017年7月には、ペプチドを冠した旧社名を現社名に変更し、ペプチド以外にも日本初の創薬コンセプトを世界に発信すべく、新規がん免疫治療薬の創製に取り組んでいます。

【製品・サービス内容】

がん免疫療法は、外科手術・放射線療法・化学療法といった標準的治療法に加わる「第4の治療法」としての立ち位置を築き、グローバルに注目を集めている領域です。近年次々と発表される画期的なサイエンスの革新と新薬の登場により、がん治療にパラダイムシフトを起こしています。このような状況を背景として、当社もリード開発品のペプチドワクチンに加え、細胞医薬や抗体医薬といった形態まで、開発領域を拡げています。

■ITK-1 (がんペプチドワクチン)

12種から4種を選んで投与するテーラーメイド型投与方法(投与前の免疫応答検査の結果により一人ひとりの患者さんに最適なペプチドを選択・投与することで、効果的な治療を狙う投与方法)に特徴があり、国内で前立腺がんを対象とする第Ⅲ相臨床試験中です(現在観察期間)。



第4の治療法:がん免疫療法

■GRN-1201 (がんペプチドワクチン)

欧米人に多い遺伝子型に対応したペプチドで構成されるGRN-1201は、日本発の創薬コンセプトを世界に発信していくための戦略開発品です。現在米国でメラノーマ(悪性黒色腫)を適応症とする第Ⅰ相臨床試験と、非小細胞肺がんを適応症とした免疫チェックポイント阻害剤との併用による第Ⅱ相臨床試験を行っています。

■GRN-1301 (ネオアンチゲンワクチン)

ネオアンチゲン(腫瘍特異的変異抗原)を標的とするがんペプチドワクチンです。非小細胞肺がん治療における分子標的薬の薬剤耐性の課題をがん免疫治療法で解決することを目指しています。ネオアンチゲンは、がん細胞でしか発現しないため、ワクチンとして高いがん排除能を有する免疫を誘導することが期待されます。

■iPS-T (iPS再生T細胞療法)

iPS技術のがん免疫療法分野へ世界初の臨床応用を目指しています。抗原特異的T細胞をiPS細胞化し、増殖、再生することにより、「T細胞疲弊」から回復した、細胞障害活性を持続的に有するT細胞療法です。

BrightPath

Biotherapeutics